図書案内　2023年　2月号

担当　2-1大江 2-2尾久 2-3梶崎 2-7毛利

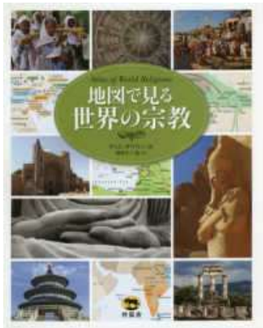
学問に関する本

２月は、大学受験を始めとした受験シーズンです。中部高校も学年末考査を控えており、次の学年に向けて大事な時期です。そこで、今月は学問に関する本を取り上げました。普段の学習にも活用できる内容が入っているので、読書を通して気分転換につなげてみてはどうでしょうか。

『アルジャーノンに花束を』／ダニエル・キイス

英語を学ぶ中で私たちは英文和訳からは逃れられない。しかし翻訳家になるわけではないため一つ一つの文を単語ごとに分割して逐語訳できれば十分だ・・。このように考える私のような人間はこの本が示す翻訳の世界の懐の深さに仰天すること必至だ。物語が主人公チャーリイ自著の経過報告という形式を取るため彼の精神的・知能的レベルが文体に現れる。原文のニュアンスを見事に反映し翻訳する仕事には目を見張るものがある。（大江）

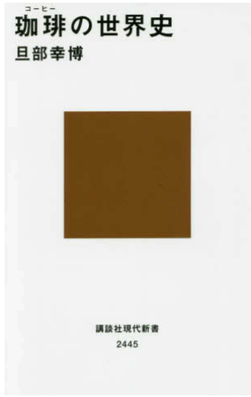
ストラウスはかせわ考えたことやおこたことをどんどんかきなさいといいますがもうかんがえられないからかくこともなにもないからきょーわこれでやめる……けえぐチャーリイ・ゴードン。



『地図でみる世界の宗教』／ティム・ダウリー

世界には、数えきれないほどの宗教が存在します。長い人類の歴史において、宗教は形を変えながら、あるいは教えを守り続けて様々な文化・社会を築き上げた反面、争いや分断の象徴、原因にもなっており現代でも切り離すことのできない分野だといえます。地図を通して、宗教の観点から視覚的に世界の歴史、文化がわかる一冊です。（尾久）

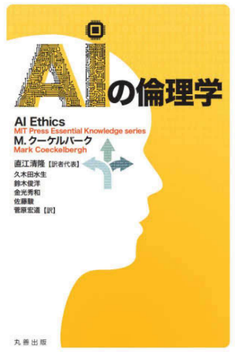
じつのところ、宗教は啓発し、畏れさせ、威圧する。
それはまた信じさせ、後悔させ、決心させ、涙を流させ、献身の念を刺激するのだ…。



『珈琲の世界史』／旦部幸博

眠気覚ましのカップ一杯のコーヒーの中には、芳醇なロマンに満ちた「物語」の数々が溶け込んでいます。コーヒーを口にするとき、私たちはその中の「物語」も同時に味わっているのです。コーヒーの歴史を知ることは、その「物語」を読み解くことに他なりません。歴史のロマンを玩味するにせよ、知識欲の渇きを潤すにせよ、深く知れば知るほどに、その味わいもまた深まるというもの。
一杯のコーヒーに潜んだその歴史を、一緒に辿ってみましょう。（梶崎）

「歴史を知ればおいしさが変わる。」



『AI の倫理学』／マーク・クーケルバーク

ChatGpt のリリースによって感じた AI の発展。その AI の倫理学を人間や社会の関係といった広い意味でこの本では展開していきます。AI を過大視する見方や悪夢のシナリオを乗り越え、具体的に AI が齎す様々な倫理的疑問にそれぞれ答えていきます。進化し続ける AI と人間の関係性を今のうちから考えてみるのはいかがでしょう？（毛利）

AI の倫理は人間中心的であるべきか。

新しい紙幣

「新しい紙幣の肖像になる渋沢栄一氏、津田梅子氏、北里柴三郎氏はそれぞれの分野で傑出した業績を残すとともに、長い時を経た現在でも私たちが課題としている新たな産業の育成、女性の活躍、科学の発展といった面からも日本の近代化をリードし、大きく貢献した方々です。」（引用　財務省 HP　https://www.mof.go.jp/faq/currency/07ap.htm）
実はこの三氏には共通点があり、それが今回のテーマである学問に関わってきます。具体的には、渋沢氏は一橋大学をはじめとする数々の大学、津田氏は津田塾大学、北里氏は慶應義塾大学医学科や私立伝染病研究所（現 NIID:国立感染症研究所）などを創設し、国内の学問の発展に寄与しています。２０２４年度の上半期から発行される予定の新紙幣の象徴でもあるこの３氏の人選は、学問を重要視するわが国ならではといえるのではないでしょうか。